

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590100147		
法人名	(株)クローバー		
事業所名	グループホームクローバー		
所在地	宮崎市新別府町前浜1401-259		
自己評価作成日	平成29年11月10日	評価結果市町村受理日	平成30年1月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kihon=true&JigyosyoCd=4590100147-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成29年12月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームは市街地郊外の静かな所に位置し近くには大型ショッピングセンターや神社、喫茶店、他の老人ホームや大きな病院もある。訪れる方は皆さん「大変便利の良い所で環境がいいですね」と口々に言われる。同じ敷地内に有料老人ホームがリニューアルされて建ち、道を挟んではグループホーム2番館があり3施設各々の行事に参加し交流を図っている。職員は経験豊富で女性が多いのですが皆元気で明るい性格の持ち主であり、利用者を自分の両親のように尊敬を持って接しており、グループホームの理念に沿って日々努力をしている。事業所のアピールをしたい点はどんな困難な事例の方でも極力引き受けているという所である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは市の郊外の静かな場所にあり、近隣には大型ショッピングセンターや病院、神社、森林公園等があり恵まれた環境の中に立地している。運営者は重度で状態の厳しい利用者でも受け入れ、本人や家族の希望があれば看取りについても前向きに対応している。また、人材育成にも力を入れ、職員の資格取得支援や法人内外の研修に職員を積極的に参加させ能力向上を図っている。利用者は天気の良い日には家族の協力を得て近くの森林公園や神社を散歩したり、ショッピングセンターに出かけたりしている。利用者が日常的にできるだけ戸外に外出できるよう支援している。利用者の高齢化が進んでいるが、職員の温かいケアに支えられて暮らしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム理念を新たに作り、毎朝の朝礼申し送り後にその日の出勤者で唱和し介護、業務にあたっているが、利用者の状態により時折出来ないことがある	法人全体の理念とは別に、職員全員で話し合い新たな理念を作成している。その理念を踏まえて笑顔のある温かいケアの実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	民家がなく地域との交流は厳しいがイベントの時などボランティアの方との交流を図っている、又、自治会に加入し回覧板などを届けており可能な限り会合に参加している	近隣に民家が少ないため、夏祭りに力を入れ、隣接の同法人3施設合同で民生委員や自治会に呼びかけ、地域住民が毎回150人以上参加する大きなイベントを行っている。祭りは歌やダンス、出店等のにぎわい、地域との交流の場となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議出席者や家族との交流の中で行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で参加された方に認知症などの話をし意見交換を行っている	会議では運営状況や行事等の報告があり、メンバーからは海岸が近いことから、津波対策等で避難場所の選定についての助言や話し合いが行われ、そこでの意見を運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	困難な事例が発生したとき等は上司が連絡を取り報告している	市の担当者とは運営上の課題や業務上の疑問点等について指導や助言を受けられる関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	意志疎通は図れないが歩く事は出来る入居者がいるので、事故を避ける為時間を決めて解錠している。施錠中でも素振りがあれば、いつでも職員員の付き添いで外出出来るようにしている	事故防止のため、これまで日中は玄関を施錠していたが、職員間で話し合い検討を重ねて現在は時間を決め一部解錠を行っている。職員は勉強会や研修会に参加して、身体拘束の弊害を学び理解を深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員一人ひとりが入浴時などに身体チェックを行い虐待防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要性は感じているが現状はまだ勉強不足である。理解と活用機会があったら拒まず積極的に臨みたいと思っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は上司により十分な説明を行い理解納得されるように努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や行事参加時、家族会などに意見を求める機会を設け反映につなげている	家族の来訪時やホームの行事開催日を利用して、家族会を開催し意見や要望を引き出す努力をしている。出された意見や要望は運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の朝礼や2カ月に1回の介護会議において職員の意見や提案を聞く機会がある。そこで出た意見等をまとめ管理者会議に提案し意見を述べる機会があり職員に反映させている	毎朝のミーティングや職員会議で職員の意見や要望を聞く機会を設けている。ただ、職員会議が2か月に1回の開催となっており、職員の意見や提案を聞く機会が少ない。	職員の意見や提案を運営やサービス向上に生かすために、月に1回程度は職員会議を開催し、職員のアイデアや気づきを運営に反映させる取り組みを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者の訪問は定期的であり、いつも気軽に声掛けしてくれ話すことが出来る環境にある。要望も直ぐに応えてくれ良好な関係性を保っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の質の向上を常に持っており資格の取得を望んでいる。代表者自ら勉強会の開催を行ってくれ管理者会議の中においては必ず最後に毎回議題を決めて研修をしてくれる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の参加等を通じて出来たネットワークを大事にして、そこで得た情報などを職員に反映してくれている。また、疑問が生じた時気軽に解決方法を聞いたり出来る良好な関係性を保っている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者へのアセスメントを十分に行っているつもりだが認知によりコミュニケーションが取れない利用者もいてなかなか難しい。しかし、念頭にはいつも寄り添う介護を思っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との連携は密にしてよりよい関係作りに力を注いでいる。職員同士情報は共有し利用者本位のサービス提供を心掛けている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の望む暮らしを見極めているものの他のサービス利用についてはまだまだ支援不足である		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	統一したチームケアに徹し利用者本位の介護でよりよい関係を保っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族、本人との聞き取りを十分に行い相談しながら共に支えあう関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自由に面会できる体制作りや屋外レクリエーション等を通して支援につとめている	親戚や知人が気軽に来訪してもらえるよう雰囲気づくりに努めている。また、利用者の自宅近くをドライブしたり家族の協力を得て墓参りをする利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はホールでそれぞれ心地よい場所で過ごしてもらい、食事席等気の合う方と同席にしたり工夫や気配りで孤立しないよう支援している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方や家族からの相談には随時対応している。また、入院中の利用者とはお見舞いに行き情緒の安定が図れるように努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から利用者との関わりの中で一緒に歌を唄ったり会話をする事で相手を知る努力をしている	日々の会話や暮らしの中から利用者の思いや意向の把握に努めている。また、家族や関係者からの情報を収集して参考にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人が所有している生活用品から生活歴を感じ取り本人の状況を把握できるようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者に寄り添う気持ちを第一に表情、行動を観察しながら現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	心身の状態を含め、日々の日常生活の様子を職員、家族から聞き取り統一した介護サービスが出来るよう計画を作成している	本人や家族、関係者の意向や要望を取り入れ職員の意見や気づきを反映させた介護計画を作成している。モニタリングは毎月行い、状況に応じて適切に見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を職員間で共有し統一した介護サービスが出来るかを再確認している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて出来る範囲で柔軟に対応している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域内の神社の祭りに参加したり散歩に行く際は近くのショッピングモールや公園へ行く等地域資源を活用している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の往診、受診時や体調変化時に情報交換に努め支援している	本人や家族が希望する医療機関で受診できる支援をしている。協力医院からは2週間に1回の往診があり、緊急時の対応についても連携ができています。また、訪問看護も週1回受け入れ支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護時に情報提供したり同事業所の隣接施設の看護師に相談できる体制をとっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は主治医からの情報提供や施設からは介護サマリで状態報告し療養がスムーズにいくよう努めている。退院前は病院と家族、施設側で相談し復帰後の対応を決め入院前の暮らしの状態に近づけるよう支援している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今年は2人の方の看取りをさせていただいた。家族、主治医、介護職と会談をしながら終末期の方針を決め最後まで付きそうことが出来た。また、次に活かして行く為に定期の介護会議で話し合いをした。	本人や家族の希望があれば看取りについては積極的に行う方針であり、協力医院や訪問看護、関係者と連携を密にし前向きに取り組んでいる。本年度は二人の看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時は訪問看護と24時間連絡取れる体制をしており、職員には周知徹底されている。応急対応については今年行っていない		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の訓練や施設の介護会議の時に避難方法を周知徹底するために避難方法の読みあわせをしている。また、運営推進会議において地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年2回の火災を想定した避難訓練は実施しているが、地域との協力体制や津波に対する避難場所の選定等の取組が十分とは言えない。	海岸に近いことから津波に対する警戒が必要であり、津波に対する避難訓練と避難場所の選定が望まれる。また、地元消防団をはじめ地域との協力体制の構築を期待したい。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	経営理念やグループホームの理念を常に念頭におき行動している。言葉遣いや接する態度に気を配りながら個々の人格を尊重し傷つけない様に対応している	利用者の人格を尊重し、名前の呼び方や言葉遣いに配慮している。特にトイレへの誘導や入浴時には利用者に恥ずかしい思いをさせないように対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の不安や希望を傾聴し、ゆっくりと丁寧な説明を行いできる限り自己決定に向けていく支援を行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の過去の生活や趣味などを参考に、毎日の自分らしい生き方や生活のペースを考慮し職員が見守っていく支援をしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容は朝の起床時に出来る利用者は自分で行ってもらい、出来ない利用者は介助で行っている。汚染した洋服は随時更衣介助や声掛け支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	今現在は、一緒に準備や片付けの出来る利用者はいない。個々の好き嫌いを把握し、残菜ある時は声掛けや介助をし、トロミ使用や食べやすい大きさに切ったり等の工夫をし摂取してもらっている	利用者一人ひとりの好みを生かし、職員が手作りの旬の食材を使った食事を提供している。高齢化が進み介助の必要な利用者が増えているが、職員がさりげなく介助しながら食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合った量を提供し、蛋白質を主に副菜やデザートを作っている、水分補給は食事時以外に3回以上は定期的に飲水してもらっている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは出来る利用者は声掛け支援と終了後の口腔内点検を行っている。出来ない利用者は声掛けしながら介助で施行している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し排泄状況を把握しながら支援している。日中はトイレでの排泄を支援している	排せつチェック表を活用して、利用者一人ひとりの排せつパターンを把握し、できるだけトイレで排せつできるよう自立に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分提供時は必ず完飲していただき市販されている飲料水や好みの飲み物を提供している。レクリエーションや廊下歩行で運動も実施している。改善が難しい時は主治医の指示で薬コントロールを行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時の会話、歌、入浴剤などで楽しい雰囲気づくりを行う。拒否があれば時間を置く、担当を代えて声掛けしたり等の工夫をしている	入浴は原則週2回としているが、本人の希望や体調に合わせて柔軟に支援している。入浴剤を入れたり、歌や会話をしながら入浴が楽しめるよう支援している。また、入浴を拒む人には、日時を変更したり、担当を代える等工夫して対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の睡眠パターンを把握しその日の心身状況も考慮して誘導している。日中レクリエーションや歩行など体を動かし適度に体も動かせるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の内服薬がわかるようファイルがあり確認している。変更があれば申し送りやノートに記録を変チェックし服薬後の状態観察している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションやコミュニケーションを通して他者との交流や楽しみを感じられるよう支援している。利用者の心身の状況に応じて洗濯物たたみやお掃除の手伝いをしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ご家族に協力して頂き外出や面会を定期的に支援している。屋外レクリエーションや地域ボランティアの訪問も計画し実施している	家族の協力を得て、天気の良い日には森林公園を散歩したり、近くの神社や大型ショッピングセンターに出かけたりしている。また、定期的にドライブや外食、花見等を計画し実施している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在の利用者の状況では現金は所持されず、ご家族管理としている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話の際は本人につなぐ対応をしている。また、希望があった場合は家族状況に応じて考慮し支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は大きい窓で花壇が見え四季折々の花が咲いていて季節を感じてもらい工夫をしている。玄関、フロアには季節を感じてもらい切り絵、折り紙等の展示物がある。施設周りは環境が良く不快な音もなくフロア内も広々として楽しい雰囲気づくりをしている	採光や温湿度、換気等、利用者が快適に生活できるよう配慮している。ホールにはソファや長椅子が置かれ、クリスマスツリーや切り絵、折り紙等が飾られ、季節感を感じながら居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中利用者は殆どをフロアにて過ごしているが、その中で本人の落ち着ける場所で過ごして頂くよう支援している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設入所の際、使い慣れた家具や椅子、テレビ等を使用されている方、また、花やご家族の写真を飾ったり等の工夫もしている	利用者の希望や個性を生かした部屋づくりを家族と相談しながら支援している。使い慣れた家具やテレビ、家族の写真等を持ち込み、安心して生活ができるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その人らしさを引き出す為の情報収集をし様々な方法を試してみて決して強制することなく好きなこと出来ることをして頂いている		